



## くも 雲にさわることにはできるの

### さわれるようなものではない

空そらにうかんでいる雲くもには、ふわふわとした綿わたのような雲くも、魚さかなのうろこのような雲くも、すじのように見える雲くもなど、いろいろな形かたちの雲くもが見られます。雲くもの近くまで行ったら、雲くもにさわれそうな感じかんがします。

遠とおくから見てみていると、雲くもにさわれそうな感じかんがしますが、雲くもは、空気中くうきちゆうの水蒸気すいじょうきが上空じょうくうで冷やされて、小さな水みづや氷こおりのつぶになり、それがたくさん集あつまったものです。このつぶは、ふつう、100分ぶんの1から100分ぶんの2ミリメートルぐらいの大きさおおです。

飛行機ひこうきが雲くもの中なかを飛とんでいるときに、窓まどから外そとのようすを見ると、飛行機ひこうきが霧きりの中なかを飛とんでいるように見えます。このことから、雲くもは、霧きりのようなもので、さわれるようなものではないことがわかります。

### くも きり おな 雲は霧と同じもの

山やまのふもとから見たとき、頂上ちようじょう付近ふきんに雲くもがかかっていたが、山やまに登のぼってみると、頂上ちようじょう付近ふきんは、一面いちめんの霧きりだったということを、体験たいけんしたことはありませんか。霧きりと雲くもとは、同じものなのです。

ふつう、地上ちじょうと接せつしているものを霧きり、空そらにうかんでいるものを雲くもとっています。わたしたちが霧きりの中なかを歩あるいているときに、霧きりは、さわれるものではないことがわかります。

(監修・村山 貢司)

